

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスあるく		
○保護者評価実施期間	令和8年2月2日		～ 令和7年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	令和7年2月2日		～ 令和8年2月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者への説明や相談対応を丁寧に行い、日常的な情報共有と信頼関係づくりができてきていること。	運営規程、支援プログラム、利用者負担、個別支援計画等について、契約時や面談時に丁寧な説明を行っている。また、送迎時や日々のやり取りを通じて、こどもの様子や課題を保護者と共有し、相談や申入れにも速やかに対応できるよう努めている。保護者評価でも、支援内容の説明、相談対応、情報伝達について高い評価を得ている。	相談内容や保護者の意向をより記録として残し、個別支援計画や事業所運営の改善により明確に反映できるようにしていく。
2	家族支援や子育て相談に継続して取り組み、家庭との連携を重視した支援ができてきていること。	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、発達の状況や課題について共通理解を持てるよう努めている。また、家族からの相談に対して面談や助言を行い、必要な情報提供にも取り組んでいる。自己評価では家族支援プログラムや相談支援が高く、保護者評価でも定期的な助言や支援について高い評価が見られる。	家族支援の内容をより体系化し、情報提供や学びの機会を継続的に整理して提供できるようにする。

3	安全管理や非常時対応、情報発信の体制を整えながら、安心して通所できる環境づくりを行っていること。	各種マニュアルやBCP、安全計画を整備し、避難訓練や感染症対策、虐待防止研修等を実施している。また、通信やSNS等を活用して活動概要や予定を発信し、保護者が安心して利用できる環境づくりに努めている。保護者評価でも、事故対応、情報発信、安心感、満足度は高い評価となっている。	安全計画や非常時対応について、保護者への周知方法をさらにわかりやすくし、実践的な訓練内容の充実を図っていく。
---	--	--	--

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員配置や研修機会、支援体制の安定化に課題があること。	利用児の状態や支援内容に応じて個別対応が必要となる場面が多く、職員配置に余裕が持ちにくいことがある。また、日々の支援や送迎業務を優先する中で、研修機会の確保や全体的な体制強化に十分な時間を取りにくい状況がある。自己評価でも職員配置と研修機会は低めの結果となっている。	役割分担の見直しや勤務体制の工夫を行いながら、外部研修・内部共有の機会を確保し、支援体制の安定化につなげていく
2	自己決定を育てる支援や、関係機関との情報共有・移行支援にばらつきがあること。	日々の支援の中では安全確保や生活支援が優先されやすく、こどもの自己選択・自己決定を意識した支援の整理が十分ではない。また、学校や相談支援、就学前機関との情報共有についても、対象児や機会の有無に左右され、継続的な仕組みとして定着しきれていない面がある。自己評価でも、自己決定支援、担当者会議への参画、就学前機関との情報共有は低い結果が見られる。	日々の活動の中に選択場面を意識的に組み込み、自己決定を支える支援を増やしていく。また、学校・相談支援・関係機関との連携方法を整理し、情報共有の機会をより安定的に確保していく。
3	地域交流や保護者同士・きょうだい同士の交流機会づくりが十分ではないこと。	個別支援や日々の運営を優先する中で、地域との交流や家族同士の交流の場を計画的に設けるところまで十分に手が回っていない。また、交流のニーズや実施方法について整理が不十分な部分もある。自己評価では地域交流に課題が見られ、保護者評価でも保護者同士・きょうだい交流の項目は低い結果となっている。	無理のない範囲で行事や情報交換の機会を設け、保護者やきょうだい、地域とのつながりを少しずつ広げていく。まずは小規模でも継続できる形を検討していく。